

■科目名			
病弱児の心理・生理・病理			
Psychology, physiology and pathology of students with health impairments			
■開設年度	■区分	■学科名	■分類
2021	専修専門科目	特別支援教育	
■単位数	■履修期	■履修条件	■開講期
2	3期		前
■担当教員			
橋口 知			
■代表教員名及び連絡先等			
橋口 知（健康教育）tomo@edu.kagoshima-u.ac.jp			
■オフィスアワー			
水曜日12時10分～12時40分（生涯教育総合研究棟2階 橋口研究室）。他の時間を希望する場合はメールやmanabaの個別指導で時間調整の連絡。manabaの個別指導やメールによる質問は、随時受付ける。			
■講義の概要（目的・内容・方法）			
この授業では、学校教育における病弱・身体虚弱について生物学的背景を基盤とする基礎的知識を習得し、多様な病弱児の臨床像への理解を深めることを目的とする。 授業内容としては、学校教育法上の位置づけを確認した上で、からだところの構造・機能(生理)の発達、代表的な疾患の理解(病理・心理)と教育的支援について取り上げる。 授業は、配付資料による講義を中心に、適宜、学習者の課題発表を加えた形式で行う。			
■授業の到達目標及びテーマ			
1 学校教育における病弱・身体虚弱の定義を説明できる。 2 代表的な原因疾患の心理・生理・病理を概説できる。			
■授業計画			
☆全15回の授業を対面形式で行う。 1 学校教育における病弱・身体虚弱、発表テーマの選択 2 病弱児教育の多様性 3 病弱児教育の課題 4 原因疾患と教育的配慮1（呼吸器系疾患、口腔・感覚器系疾患） 5 原因疾患と教育的配慮2（造血器疾患、免疫、アレルギー） 6 原因疾患と教育的配慮3（消化器系疾患） 7 原因疾患と教育的配慮4（腎尿路系疾患、生殖器疾患） 8 原因疾患と教育的配慮5（代謝・内分泌疾患、皮膚疾患） 9 原因疾患と教育的配慮6（神経系疾患、運動器疾患） 10 原因疾患と教育的配慮7（発達障害） 11 原因疾患と教育的配慮8（小児心身症と精神疾患） 12 病弱児への教育的支援の方向性1（小児慢性疾患） 13 病弱児への教育的支援の方向性2（悪性新生物、臓器移植） 14 病弱児への教育的支援の方向性3（医療的ケア） 15 教育と保健医療福祉との連携、確認試験			
■授業外学習（予習・復習）			
予習：次回のテーマに対して、解剖学、生理学、微生物学・薬理学等の知識の確認及び配付資料を通読し疑問点の生理を行う。（学習に係る標準時間：各回2時間） 復習：配付資料を用いて知識を確実に修得するよう反復学習を行う。（学習に係る標準時間：各回2時間）			
■受講要件			
■成績の評価基準			
授業中の活動状況(20%)、課題発表を含む複数回の課題レポート(50%)、確認試験(30%)により、総合的に評価を行う。 授業中の活動状況は、自己演習への取り組み状況や小レポートの内容を評価する。 課題発表は、内容の妥当性・適切性・発表のわかりやすさの程度を評価する。 課題レポートは、テーマに対する問題点の設定の適切性や考察の独自性・妥当性を評価する。 確認試験は、授業内容の習熟度及び授業の到達目標への達成度を評価する。			

原則として、出席が全授業回数の3分の2以上の場合、評価対象とする。

ただし、発表の実施と確認試験の受験を評価対象の条件とする。

■教科書・参考書

教育支援資料 ～障害のある子供の就学手続と早期からの一貫した支援の充実～ 文部科学省初等中等教育局特別支援教育課 平成25年10月 第3編 障害の状況等に応じた教育的対応（授業進行に応じて配付予定。文部科学省HPからダウンロード可能）。参考書は随時、紹介する。

■教師としての資質能力に関するチェック項目

9. 学習者の心理・発達に関する理解

【C学習者理解】子どもの発達や心理など，子ども理解のための基礎的な知識を身に付けており，それらを生かして子どもの発達を分析することができる

11. 特別支援教育に関する理解

【C学習者理解】特別支援教育に関する基本的な知識を身に付けており，それを生かした具体的な指導・支援の在り方を構想することができる

16. 情報収集力，分析力，活用力

【D構想力，展開力，評価力等】情報を収集し，整理・分析することを通して，その情報を活用していくことができる

アクティブ・ラーニング

グループ・ディスカッション；

プレゼンテーション；

振り返り（ミニッツ・ペーパー等）；

アクティブ・ラーニング（その他）

アクティブ・ラーニング（授業回数）

15回中10回

■実務経験のある教員による実践的授業

担当教員は精神科医師として継続して診療に従事しているため、具体性のある事例提示をもとに医学・医療の情報や支援について理解を深める授業内容の構成としている。

■その他

授業形態（対面・遠隔）については、新型コロナウイルス感染症の影響、その他の理由により、変更する場合がある。